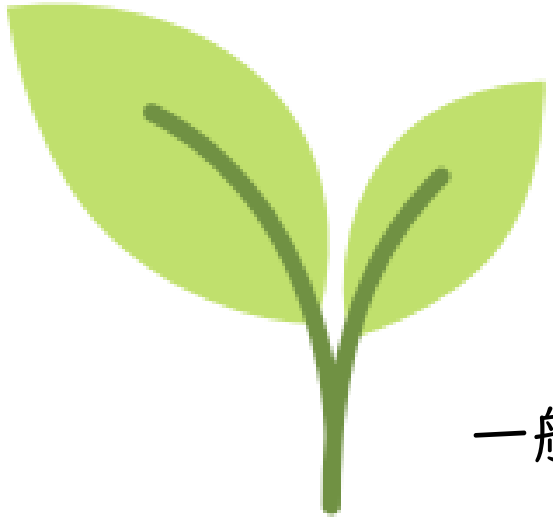
令和4～5年度「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業【留学類型】

教育モデルおよび教師研修モデルの開発

（2024年1月31日現在）



一般財団法人 日本語教育振興協会

1 留学類型の教育モデル開発の柱

2 〈コースフレームワーク〉について

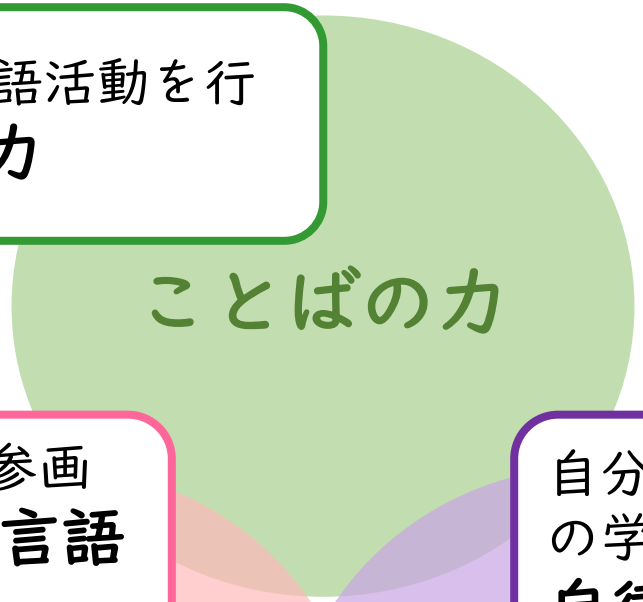
3 〈モジュールボックス〉について

4 教師研修（試行）の概要

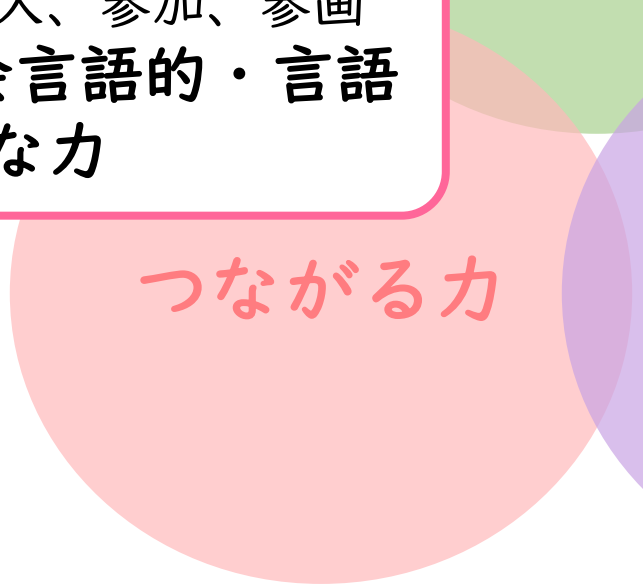
留学類型の日本語教育の「学習・教育の目標」

【３つの力】

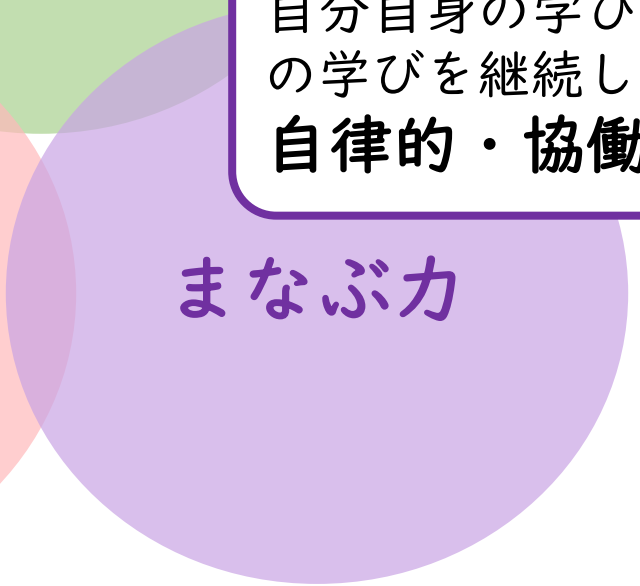
日本語を用いてさまざまな言語活動を行う際に必要となる**言語的な力**



日本の社会に主体的に参入、参加、参画する際に必要となる**社会言語的・言語文化的・社会文化的な力**



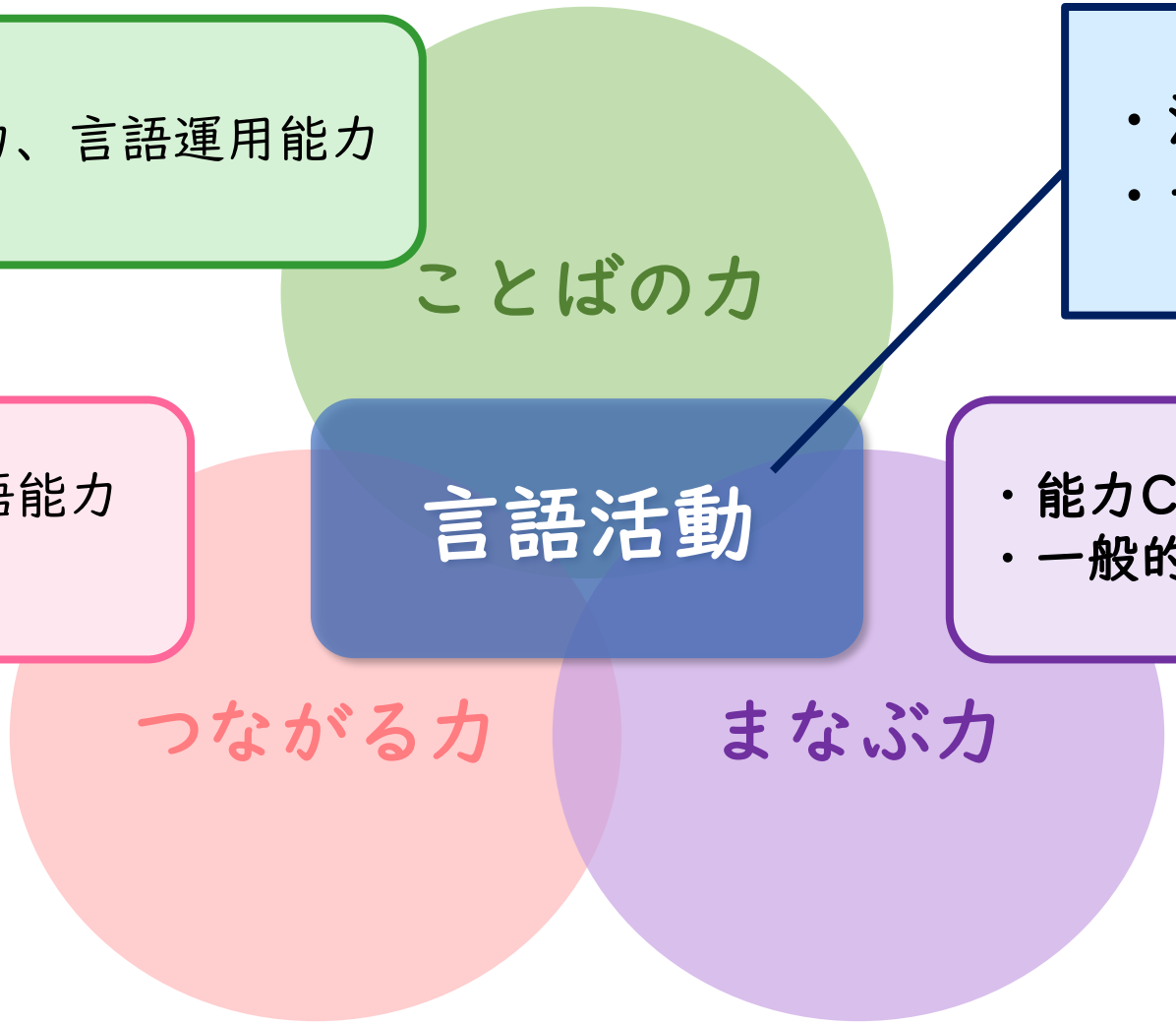
自分自身の学びを自己管理しながら自らの学びを継続していく際に必要となる**自律的・協働的に学ぶ力**



【３つの力】と「日本語教育の参照枠」Can doとの関連

主に、
・能力Can do：言語能力、言語運用能力
・方略Can do

・活動Can do
・テクストCan do



・能力Can do：社会言語能力
・一般的能力*

・能力Can do：言語運用能力
・一般的能力*

注．それぞれの力の育成には、ここで示すCan doが相互補完的に関与するし、それ以外の要素も関与する。

*一般的能力:「日本語教育の参照枠」p.76参照

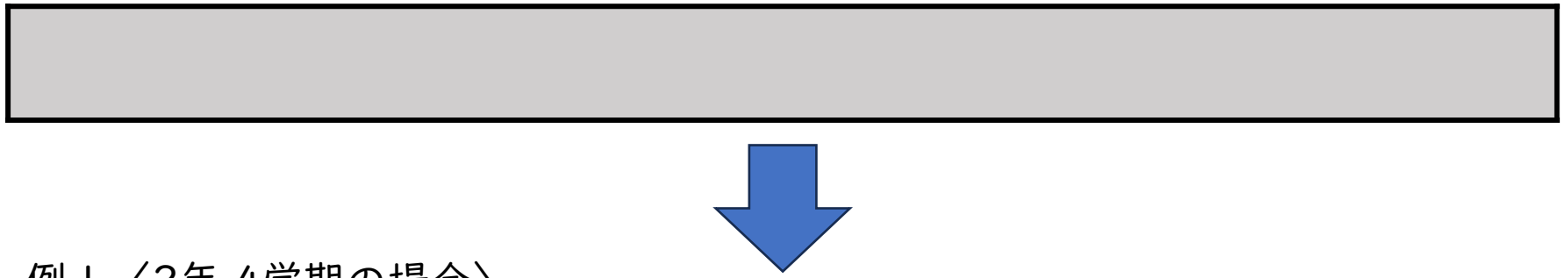
包括的で柔軟性の高いカリキュラムを作成するための２つのツールの開発へ

コースフレームワーク

モジュールボックス

〈コースフレームワーク〉とは

【留学類型】の日本語教育機関に設置される最長2年間の学習課程（コース）を横長の帯の形で示した枠（フレームワーク）



例１〈2年 4学期の場合〉

例２〈1.5年 6学期の場合〉

①原型モデル

時間	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ
学習 段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」 レベル	~A1	A1~A2	A2	A2+ ~B1	B1	B1+	B1+ ~B2	B2	B2+	C1~

- ３か月を１学期とする10段階の設定。
- A1～C1までの段階を３か月ごとに、ほぼ一定の学習時間で進めるモデル。
- カリキュラム作成の際に、どの段階から始めてどの段階で終わるか検討する。

2

②Aレベル中心モデル

時間	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ
学習 段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽
「参照枠」 レベル	～A1	A1	A2	A2	A2＋	A2＋～B1	B1	B1

- ３か月を１学期とする８段階の設定。
- Aレベルに３か月×5.5学期という十分な時間をかけ、最終的にB1到達を目標とするモデル。
- 想定される対象は、言語間距離が遠い学習者や比較的学習に時間のかかるタイプの学習者。
- 生活者、就労者（特定技能・技能実習）、学び直しや趣味で学ぶ学習者などを含む。

2

③Bレベル中心モデル

時間	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ	3か月 180コマ
学習 段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽
「参照枠」 レベル	B1	B1＋	B1＋～B2	B2	B2～ B2＋	B2＋	B2＋～C1	C1～

- ３か月を１学期とする８段階の設定。
- Bレベルに３か月×６学期という十分な時間をかけ、最終的にC1到達を目指すモデル。
- 想定される対象は、母国での学習歴があるか学習のレディネスが身についているタイプの学習者。
- 進学・就職などの高い目標に向かって、比較的早くB2レベルに到達する学習者を含む。

3 留学類型の日本語教育における基本10モジュール

INDEX
ページ

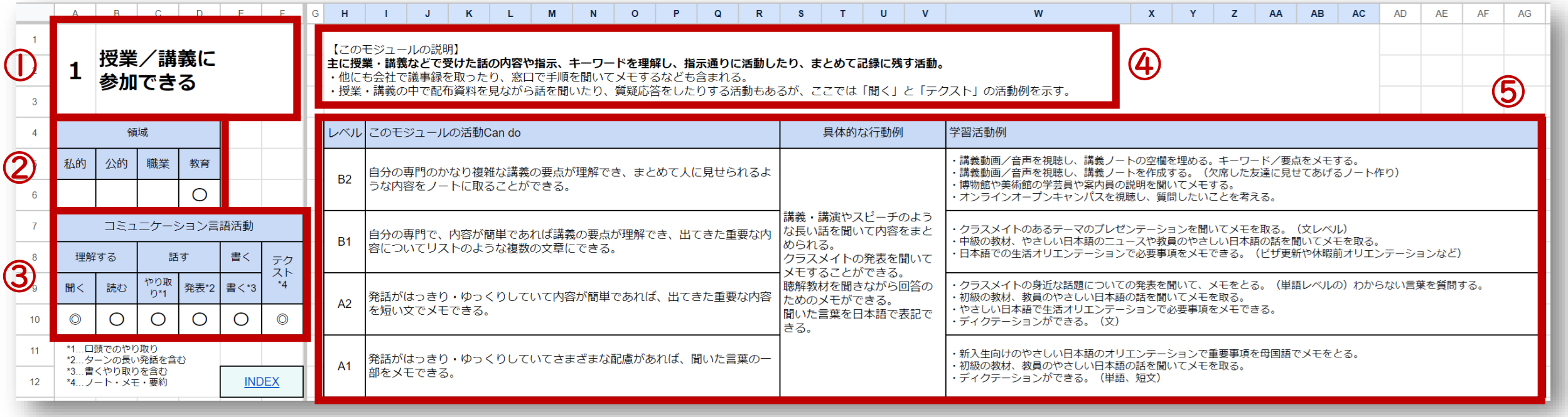
【留学類型：基本10モジュール】			
1	授業／講義に参加できる	6	情報発信ができる
2	グループでの活動に参加できる	7	問い合わせができる
3	試験対策ができる	8	社交ができる
4	面接・面談が受けられる	9	手続きができる
5	情報収集ができる	10	楽しむことができる

※進学を目指す学習者を意識しつつも、就職や生活等を目的とする学習者が求める言語活動にも対応できるよう抽出・選定。（例.「３ 試験対策ができる」は日本語試験や大学入試以外にも多様な試験をイメージ。）

3

〈モジュールボックス〉の構成（1/3）

基本10モジュール【1 授業／講義に参加できる】の例：



①

1 授業／講義に参加できる

【このモジュールの説明】
主に授業・講義などで受けた話の内容や指示、キーワードを理解し、指示通りに活動したり、まとめて記録に残す活動。
・他にも会社で議事録を取ったり、窓口で手順を聞いてメモするなども含まれる。
・授業・講義の中で配布資料を見ながら話を聞いたり、質疑応答をしたりする活動もあるが、ここでは「聞く」と「テクスト」の活動例を示す。

④

⑤

②

領域			
私的	公的	職業	教育
			○

③

コミュニケーション言語活動					
理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
◎	○	○	○	○	◎

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

レベル	このモジュールの活動Can do	具体的な行動例	学習活動例
B2	自分の専門のかなり複雑な講義の要点が理解でき、まとめて人に見せられるような内容をノートに取ることができる。	講義・講演やスピーチのような長い話を聞いて内容をまとめられる。 クラスメイトの発表を聞いてメモすることができる。 聴解教材を聞きながら回答のためのメモができる。 聞いた言葉を日本語で表記できる。	・講義動画／音声を視聴し、講義ノートの空欄を埋める。キーワード／要点をメモする。 ・講義動画／音声を視聴し、講義ノートを作成する。（欠席した友達に見せてあげるノート作り） ・博物館や美術館の学芸員や案内員の説明を聞いてメモする。 ・オンラインオープンキャンパスを視聴し、質問したいことを考える。
B1	自分の専門で、内容が簡単であれば講義の要点が理解でき、出てきた重要な内容についてリストのような複数の文章にできる。		・クラスメイトのあるテーマのプレゼンテーションを聞いてメモを取る。（文レベル） ・中級の教材、やさしい日本語のニュースや教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・日本語での生活オリエンテーションで必要事項をメモできる。（ピザ更新や休暇前オリエンテーションなど）
A2	発話がはっきり・ゆっくりしていて内容が簡単であれば、出てきた重要な内容を短い文でメモできる。		・クラスメイトの身近な話題についての発表を聞いて、メモをとる。（単語レベルの）わからない言葉を質問する。 ・初級の教材、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・やさしい日本語で生活オリエンテーションで必要事項をメモできる。 ・ディクテーションができる。（文）
A1	発話がはっきり・ゆっくりしていてさまざまな配慮があれば、聞いた言葉の一部をメモできる。		・新入生向けのやさしい日本語のオリエンテーションで重要事項を母国語でメモをとる。 ・初級の教材、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・ディクテーションができる。（単語、短文）

右スクロール

①【**基本10モジュール**】の項目（INDEX 1～10と一致）
②このモジュールが主にどのような活動であるか、特徴の説明
③このモジュールの活動が行われると想定される主な「領域」
④このモジュールの活動の遂行に大きく関わると考えられる「日本語教育の参照枠」のコミュニケーション言語活動の種類
⑤このモジュールの「活動Can do」（A1～B2）、具体的な行動の例、その行動の遂行に向けた学習活動（レベル別）の例

3 〈モジュールボックス〉の構成（2/3）

基本10モジュール【１ 授業／講義に参加できる】の例：

1 授業／講義に参加できる

領域			
私的	公的	職業	教育
			○

コミュニケーション言語活動					
理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
◎	○	○	○	○	◎

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

モジュール１に強く関連する日本語教育の参照枠の枠組み（黄色の部分）　＊青字はすべてレベルごとの能力記述文にリンクしています。

コミュニケーション言語活動					コミュニケーション言語方略				コミュニケーション言語能力		
聞くこと	読むこと	やりとり	発表	書くこと	産出	受容	相互行為	テクストタイプ	言語構造的能力	社会言語能力	言語運用能力
包括的な聴解	包括的な読解	一般的な話し言葉のやり取り	総合的な口頭発話	総合的な書く活動	計画	手掛かりの発見と推論	発言権の取得 / 保持	ノート取り（講義やセミナーなど）	① 語彙能力	社会言語的な適切さ	ディスコース（談話構成）能力
聴衆の一人として生で聞くこと	通信文を読むこと	対話相手の理解	長く一人で話す：経験談	創作	補償		協力	テクストの処理	② 文法能力		場面に応じた柔軟性
他の話者同士の対話の理解	世情を把握するために読むこと	会話	長く一人で話す：論拠を述べること	レポートやエッセイ	モニタリングと修正		説明を求めること		③ 意味的能力		発話の順番（発言権）
広報・アナウンスや指示を聞くこと	情報や議論を読むこと	公式の議論とミーティング	聴衆の前での講演	一般的な書かれた言葉でのやりとり					④ 音声能力		話題の展開
音声メディアや録音を聞くこと	説明書を読むこと	インタビューすること、受けること	公共アナウンス	通信					⑤ 正書法の能力		一貫性と結束性
テレビや映画を見ること		非公式の議論（友人との）		記録、メッセージ、書式					⑥ 読字能力		機能的能力
		目的達成のための協同作業									話し言葉の流ちょうさ
		製品やサービスを得るための取引									叙述の正確さ
		情報の交換									

赤枠＝モジュール１に強く関連する「日本語教育の参照枠」の枠組み：

このモジュールの活動の遂行に大きく関わると考えられる「日本語教育の参照枠」の項目を黄色で例示。

3 〈モジュールボックス〉の構成（3/3）

基本10モジュール【1 授業／講義に参加できる】の例：

モジュール1に強く関連する日本語教育の参照枠の枠組み（黄色の部分）　＊青字はすべてレベルごとの能力記述文にリンクしています。

コミュニケーション言語活動					コミュニケーション言語方略				コミュニケーション言語能力		
聞くこと	読むこと	やりとり	発表	書くこと	産出	受容	相互行為	テクストタイプ	言語構造的能力	社会言語能力	言語運用能力
包括的な聴解	包括的な読解	一般的な話し言葉のやり取り	総合的な口頭発話	総合的な書く活動	計画	手掛かりの発見と推論	発言権の取得 / 保持	ノート取り（講義やセミナーなど）	① 語彙能力	社会言語的な適切さ	ディスコース（談話構成）能力
聴衆の一人として生で聞くこと	通信文を読むこと	対話相手の理解	長く一人で話す：経験談	創作	補償		協力	テクストの処理	② 文法能力		場面に応じた柔軟性
他の話者同士の対話の理解	世情を把握するために読むこと	会話	長く一人で話す：論拠を述べること	レポートやエッセイ	モニタリングと修正		説明を求めること		③ 意味的能力		発話の順番（発言権）
広報・アナウンスや指示を聞くこと	情報や議論を読むこと	公式の議論とミーティング	聴衆の前での講演	一般的な書かれた言葉でのやりとり							
音声メディアや録音を聞くこと	説明書を読むこと	インタビューすること、受けること	公共アナウンス	通信							
テレビや映画を見ること		非公式の議論（友人との）		記録、メッセージ、書式							
		目的達成のための協同作業									
		製品やサービスを得るための取引									
		情報の交換									

ジャンプ

方略（相互行為）　【説明を求めること】

C2		B2 と同じ。
C1		B2 と同じ。
B2	B2.2	相手の発言を正しく理解したかどうかを確認するための質問ができ、曖昧な点の説明を 求めることができる。
	B2.1	
B1	B1.2	誰かが今言ったことの意味を明らかにするよう、詳しく説明するよう人に求めることができ る。
	B1.1	
A2	A2.2	分からないときは、繰り返してもらうよう単純な表現で頼むことができる。 手持ちの表現を使って、理解できていないキーワードや表現の意味の説明を求め ることができる。
	A2.1	理解できないと言うことができる。
A1		利用できる言語能力記述文はない。

例．相互行為活動（やり取り）の方略
「説明を求めること」

項目をクリックすると、「日本語教育の参照枠」のA1からC2までの能力記述文にジャンプするので、必要に応じて参照可能。（元に戻ることもできる）

4 教師研修（試行）の概要 〈教師研修モデルの試案と試行〉

●研修名：
令和５年度文化庁委託
「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発事業」
カリキュラム作成のための教員研修 試行

●開催日：2024年１月13日（土）　10:00～17:00

●参加者：計50名（申込者数：53名）

●プログラム：
１．開催の挨拶
２．開催の趣旨
３．留学類型の教育モデル開発の概要
４．カリキュラム作成とコースフレームワーク
５．モジュールボックスとその活用
６．ワークショップ
７．評価に関する事例紹介
８．質疑応答
９．全体のまとめ　（＊現在、終了後アンケートの集計中）